

様式1-1

大学等名	山梨学院大学
プログラム名	ICTスキルとデータサイエンス修得プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

法学部、経営学部、スポーツ科学部

③ 修了要件

「ICTリテラシーA」2単位、~~「ICTリテラシーB」2単位~~、「データサイエンス」2単位の必修3科目、合計6単位を取得すること

必要最低単位数 6 単位 履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス	2	○	○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス	2	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス	2	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス	2	○	○	○					
ICTリテラシーA	2	○		○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容	
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている 「データサイエンス」(第1回、 第10回～第15回 第10回～第13回)
	1-6	・AI最新技術の活用例 「データサイエンス」(第1回、 第10回～第15回 第10回～第13回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・オープンデータ、調査データ、実験データ 「データサイエンス」(第2回、第3回、 第10回～第15回 第10回～第13回)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり 「データサイエンス」(第2回、第3回、 第10回～第15回 第8回～第13回)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析: クロス集計、回帰分析、ベイズ推論、アソシエーション分析、クラスタリング、決定木 「データサイエンス」(第8回、第9回 第4回～第8回) ・特化型AIと汎用AI 「データサイエンス」(第10回 第9回)
	1-5	・サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介 「データサイエンス」(第10回～第15回 第10回～第13回)

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上の留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ELS、個人情報保護、忘れられる権利、データ倫理、データバイアス「データサイエンス」(第2回) ・データ・AI活用における負の事例紹介「データサイエンス」(第10回～第15回 第10回～第13回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・匿名加工情報「データサイエンス」(第2回) ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「データサイエンス」(第3回) ・パスワード、悪意ある情報擷取「ICTリテラシーA」(第1回、第5回 第7回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「ICTリテラシーA」(第5回 第7回)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)、代表値の性質の違い、データのばらつき、相関と因果(相関係数)「ICTリテラシーB」(第14回 第10回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図)「ICTリテラシーB」(第14回 第10回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計(和、平均)、データの並び替え「ICTリテラシーB」(第15回 第8回、第9回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

ICTスキルと数理・データサイエンス・AIの基礎知識が同時に身につきます。グループ学習を通じて、協力して発表資料を作成することで数理・データサイエンス・AIを学ぶことの楽しさを体験し、将来に渡って学ぶ力が身につきます。

様式1-2

大学等名	山梨学院大学
プログラム名	ICTスキルとデータサイエンス修得プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

健康栄養学部

③ 修了要件

「情報処理演習Ⅰ」1単位、「情報処理演習Ⅱ」1単位、「データサイエンス」2単位の必修3科目、合計4単位を取得すること

必要最低単位数 単位 履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス	2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス	2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス	2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス	2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
情報処理演習Ⅰ	1	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容	
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会 「データサイエンス」(第1回、 第10回～第15回 第10回～第13回)
	1-6	・AI最新技術の活用例 「データサイエンス」(第1回、 第10回～第15回 第10回～第13回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・オープンデータ、調査データ、実験データ 「データサイエンス」(第2回、第3回、 第10回～第15回 第10回～第13回)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり 「データサイエンス」(第2回、第3回、 第10回～第15回 第8回～第13回)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析:クロス集計、回帰分析、ベイズ推論、アソシエーション分析、クラスタリング、決定木 「データサイエンス」(第8回、第9回 第4回～第8回) ・特化型AIと汎用AI 「データサイエンス」(第10回 第9回)
	1-5	・サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介 「データサイエンス」(第10回～第15回)

(4)活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上の留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ELS、個人情報保護、忘れられる権利、データ倫理、データバイアス「データサイエンス」(第2回) データ・AI活用における負の事例紹介「データサイエンス」(第10回～第15回 第10回～第13回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> 匿名加工情報「データサイエンス」(第2回) 情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「データサイエンス」(第3回) 暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「情報処理演習I」(第7回、第8回 第1回、第2回)
(5)実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> 母集団と標本抽出(アンケート調査、全数調査)「情報処理演習II」(第9回 第12回) データの種類(量的変数、質的変数)「情報処理演習II」(第12回) データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)、代表値の性質の違い、データのはらつき(分散、標準偏差、偏差値)、相関と因果(相関係数)「情報処理演習II」(第13回 第10回～第12回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図)「情報処理演習II」(第11回 第5回～第7回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> データの集計(和、平均)、データの並び替え「情報処理演習II」(第13回 第5回～第7回)

(11) プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

ICTスキルと数理・データサイエンス・AIの基礎知識が同時に身につきます。グループ学習を通じて、協力して発表資料を作成することで数理・データサイエンス・AIを学ぶことの楽しさを体験し、将来に渡って学ぶ力が身につきます。

様式1-3

大学等名	山梨学院大学
プログラム名	ICTスキルとデータサイエンス修得プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

国際リベラルアーツ学部

- ③ 修了要件

「Introduction to Data Science」1単位を取得すること

必要最低単位数 単位 履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
Introduction to Data Science	1	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					

- ⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
Introduction to Data Science	1	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					

- ⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
Introduction to Data Science	1	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					

- ⑦「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上で留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
Introduction to Data Science	1	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
Introduction to Data Science	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容	
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット 「Introduction to Data Science」(第1回) (第13回)
	1-6	・AI最新技術の活用例 「Introduction to Data Science」(第1回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、データのオープン化 「Introduction to Data Science」(第2回) ・構造化データ 「Introduction to Data Science」(第5回)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり 「Introduction to Data Science」(第1回)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・特化型AIと汎用AI 「Introduction to Data Science」(第12回)
	1-5	・探索的データ解析 「Introduction to Data Science」(第8回) (第10回) (第11回)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上で留意事項への理解をする	3-1	・個人情報保護、データ倫理 「Introduction to Data Science」(第7回)
	3-2	・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性 「Introduction to Data Science」(第7回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類、データのばらつき 「Introduction to Data Science」(第3回) (第4回) ・母集団と標本抽出 「Introduction to Data Science」(第4回) ・相関と因果 「Introduction to Data Science」(第6回)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図) 「Introduction to Data Science」(第9回)
	2-3	・データの集計(和、平均)、データの並び替え、ランキング、表形式のデータ(csv) 「Introduction to Data Science」(第14回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIの基礎的な知識が身につきます。多種性豊かな学生がともに学ぶことで、数理・データサイエンス・AIについても多種多様な考え方を見につくることができます。

02 【リテラシーレベル】 山梨学院大学 (変更後のシラバス)

- ・データサイエンス
- ・ICTリテラシー
- ・情報処理演習 I
- ・情報処理演習 II
- ・Introduction to Data Science

学期	2025年度後期	ナンバリングコード	ICT102	
科目名称	データサイエンス		開講言語	日本語
担当教員	伊藤 栄一郎			
開講学科	経営学科			
科目群	ICTスキル	履修相当年次	1年	
曜日時限	木曜2限	単位数	2単位	
到達目標	<p>この授業では以下の3つを到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを説明できる。 ・今のAIで出来ることと、出来ないとの判別ができる。 ・社会におけるデータやAIの利活用事例を調査して、発表できる。 			
関連DP	DP1-②(考え方)			
授業概要	<p>データサイエンスとは、意思決定をサポートするために大量のデータから法則・関連性を導き出すための手法を指すことが一般的です。一方、大量のデータが存在することが一般的となった現代社会では、このデータサイエンスの活用が必要不可欠なものになっています。この授業では、データサイエンスの活用法に重きをおいて学習します。</p> <p>日本はAI人材の育成で世界から遅れを取っているといわれています。AI人材とは、データサイエンスの基礎的な知識・技能をもとに、AIを扱う際に人間中心の適切な判断ができ、自らの意志でAIの恩恵を享受できる人材のことです。</p> <p>また、社会では、DX（デジタルトランスフォーメーション）が進められています。当初は、DXはデジタル化により作業の効率化を行う用語として使われていました。現在では、ビッグデータやAIなどのデータサイエンスを活用して製品やサービスを変革し、新たな価値を生み出すこととしてDXが使われています。</p> <p>この授業では、データサイエンスの基礎的な素養に身に付けて、AI人材を育成すること、DX社会で活躍できる人材を育成することを目的とします。</p> <p>授業では、以下の内容を扱います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で起きている変化 ・社会で活用されているデータ ・データ・AIの活用領域 ・データ・AI利活用のための技術 ・データ・AI利活用の現場 ・データ・AI利活用の最新動向 <p>第1回～第9回の授業は主に講義形式で行い、第10回～第14回はグループ学習を行います。</p> <p>【PC必携科目に関する注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この科目はPCの持ち込みが必要な科目です。（大学が指定する仕様のPCを推奨） ・十分に充電され、利用できる状態のPCを持参の上で授業を受けてください。 ・PCを持参しなかった場合でも欠席とはなりませんが、授業での個別サポートや代替の課題はないため、PCを使ったテストや課題等を実施／提出できずに評価の面で不利益を被ることがあります。 			
利用するアクティブラーニング手法	グループワーク／プレゼンテーション			

授業計画	
回数	内容
第1回	<p>現代社会におけるデータサイエンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスの役割 <p>キーワード：ビッグデータ、IoT、AI、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会</p> <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第2回	<p>現代社会におけるデータサイエンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスと情報倫理 <p>キーワード：倫理的・法的・社会的課題、個人情報保護（ELSI）、データ倫理、匿名加工情報</p> <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>

第3回	<p>現代社会におけるデータサイエンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ分析のためのデータの取得と管理 <p>キーワード：調査データ、実験データ、データ作成、データのオープン化、データバイアス</p> <p>授業内容に関する小テスト（授業後） 1章の内容に関する課題レポート（授業後）</p>
第4回	<p>データ分析の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒストグラム・箱ひげ図・平均値と分散 <p>キーワード：データ可視化</p> <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第5回	<p>データ分析の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散布図と相関係数 ・回帰直線 <p>キーワード：データ可視化、データ解析</p> <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第6回	<p>データ分析の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ分析で注意する点 <p>キーワード：データ解析</p> <p>授業内容に関する小テスト（授業後） 2章の内容に関する課題レポート（授業後）</p>
第7回	<p>データサイエンスの手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロス集計 ・回帰分析 <p>キーワード：データ解析、データサイエンスのサイクル</p> <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第8回	<p>データサイエンスの手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベイズ推論 ・アソシエーション分析 ・クラスタリング ・決定木 <p>キーワード：データ・AI活用領域の広がり、データサイエンスのサイクル</p> <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第9回	<p>データサイエンスの手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニューラルネットワーク ・機械学習とAI ・生成AI <p>キーワード：データ・AI活用領域の広がり、特化型AIと汎用AI、AI最新技術の活用例</p> <p>授業内容に関する小テスト（授業後） 3章の内容に関する課題レポート（授業後）</p>
第10回	<p>グループ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループづくり ・グループでのテーマ設定

	<p>キーワード：データ・AI利活用事例紹介、AI最新技術の活用例</p> <p>グループワークに関するワークシート提出（授業内）</p>				
第11回	<p>グループ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに従った活用事例の調査とまとめ ・調査内容に関するプレゼンテーション資料の作成 <p>キーワード：データ・AI利活用事例紹介、AI最新技術の活用例</p> <p>グループワークに関するワークシート提出（授業内）</p>				
第12回	<p>グループ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション資料（動画・ポスター）の作成と提出 <p>キーワード：データ・AI利活用事例紹介、AI最新技術の活用例</p> <p>グループワークに関するワークシート提出（授業内） プレゼンテーション資料の提出（授業後）</p>				
第13回	<p>成果発表とまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループのプレゼンテーションの閲覧とコメント ・まとめ <p>キーワード：データ・AI利活用事例紹介、AI最新技術の活用例</p> <p>授業内容に関するワークシート提出（授業後）</p>				
授業運営におけるICT活用	<p>BYODを用いた資料配布 BYODを用いた課題提示・課題提出 BYODを用いたワークシートの記入 BYODを用いたプレゼンテーション資料の作成</p>				
事前・事後学習の内容	<p>第1回から第9回まで、授業内容に関する小テストを出題します。予習と復習のために各3時間が必要です。（小計27時間） 課題レポートを3回実施します。準備のために各5時間が必要です。（小計15時間）</p> <p>第10回から第13回まで、グループワークを行います。授業への準備や振り返りのために各3時間が必要です。（小計12時間） プレゼンテーションの作成や掲載のために6時間が必要です。（6時間）</p> <p>合計60時間</p>	予習時間	2時間	復習時間	3時間
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講評はLMSで行います。 ・詳細の説明を希望する学生には授業Q&Aやメールにて対応します。 				
評価方法	評価割合	評価基準など			
授業内小テスト	30%	単位認定には60%以上の正答率が必要です			
レポート課題	30%				
授業内課題（ワークシートなど）	15%				
プレゼンテーション	25%	単位認定には発表資料の提出が必要です			
書名	著者	出版社	ISBN	備考	
はじめてのデータサイエンス 第2版	滋賀大学データサイエンス学部・山梨学院大学 ICT リテラシー教育チーム 共編	学術図書出版社	978-4-7806-1345-2	2,090円（本体1,900円）	
参考資料・URL					
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要）	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目は実務経験を有する教員の担当する科目です。 ・私の主な勤務実績は、1987年から1997年まで複数のソフトウェア開発会社にてプログラマ・システムエンジニアを行っていました。 ・大学教員となってからは、複数企業のITコンサルティングを経験しました。 ・実務経験で得たノウハウを授業運営に活かしていきます。 				

前年度の授業を踏まえた今年度の授業	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスやAIについてわかりやすい授業を行います。
特記事項	<p>【単元】 全体を4つの単元に分けて授業を展開します。</p> <p>【グループ学習】 第4単元では、アクティブラーニングを取り入れたグループディスカッションやプレゼンテーションを行います。メンバーと協力しながら進めてください。</p> <p>【評価方法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内小テストは、第1回から第9回までの授業内容にもとづいて出題します。 レポート課題は、テキストの各章ごとに1回ずつ計3回出題します。 授業内課題は、第4単元のグループワークで作成するワークシートを提出してもらいます。 プレゼンテーションは発表資料を提出してもらいます。 <p>なお、以下に該当する場合には、合格水準に達していても単位認定しないことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を5回以上欠席した場合 第3回の授業時点で指定されたテキストを用意しなかった場合 未提出のレポート課題がある場合 プレゼンテーションの発表資料を提出しなかった場合 小テストやレポート等の提出において不正行為を行なった場合や、不正行為に関わった場合 授業に関して教員の指示等に繰り返し従わなかった場合

学期	2025年度前期	ナンバリングコード	ICT101
科目名称	ICTリテラシー	開講言語	日本語
担当教員	伊藤 栄一郎		
開講学科	法学科／経営学科		
科目群	ICTスキル	履修相当年次	1年
曜日時限	水曜2限	単位数	2単位
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 初年次の授業で必要となるレベルでPCやオフィスアプリを操作できる。 個人的な用途で十分なレベルのキーボードタイピングができる。 		
関連DP	DP1-②(考え方抜く力)		
授業概要	<p>大学の授業では、さまざまな場面（授業を受ける、レポートを書く、就職活動する）でPCを活用するため、家庭や高等学校などにおけるPCの使い方とは異なり、戸惑うことも多いでしょう。</p> <p>この授業では大学の授業で必要とされる基本的なPC操作スキルを習得し、自分のPCを最大限活用できるようにします。普段からPCを利用することを通じて、社会で求められるPC操作スキルを獲得してください。</p> <p>【PC必携科目に関する注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> この科目はPCの持ち込みが必要な科目です。（大学が指定する仕様のPCを推奨） 十分に充電され、利用できる状態のPCを持参の上で授業を受けてください。 PCを持参しなかった場合でも欠席とはなりませんが、授業での個別サポートや代替の課題はないため、PCを使ったテストや課題等を実施／提出できずに評価の面で不利益を被ることがあります。 		
利用するアクティブラーニング手法	実習・フィールドワーク		

授業計画

回数	内容
第1回	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> YGU WiFiの使い方 UNIPAの活用 Microsoft 365 のログインとOutlookの使い方 <p>【注意事項】 ノートPCは毎回、充電済みのものを持参してください</p>
第2回	<p>インターネットの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> Microsoft 365 の活用 Teams, OneDriveの使い方 <p>タッチタイピング</p> <ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 スクリーン画像の保存
第3回	<p>Wordの活用 1</p> <ul style="list-style-type: none"> Wordの基本知識 文書の作成 ページ設定と文書の印刷 PDFファイルのエクスポート <p>【注意事項】 この回からテキスト「30時間アカデミック Office2021 Windows 11対応」を必ず持参してください。</p>
第4回	<p>Wordの活用 2</p> <ul style="list-style-type: none"> 表の作成 文書の編集 表現力をアップする
第5回	<p>Wordの活用 3</p> <ul style="list-style-type: none"> 長文作成をサポートする Word活用課題レポート
第6回	<p>ノートPCの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> さまざまなファイル操作 スマホやタブレットとの相互連携 アプリのインストール

第7回	<p>インターネットの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データを守る方法 ・検索機能の活用 ・オープンデータの取得 <p>【注意事項】 この回からテキスト「はじめてのデータサイエンス」も必ず持参してください。</p>				
第8回	<p>Excelの活用 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Excelの基礎知識 ・データの入力・編集 ・表の作成 ・外部データのインポート 				
第9回	<p>Excelの活用 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな数式 ・グラフと図形 ・ヒストグラム・箱ひげ図・平均値と分散 				
第10回	<p>Excelの活用 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ExcelデータをWord文書に利用する ・散布図と相関係数 ・Excel活用課題レポート 				
第11回	<p>PowerPointの活用 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PowerPointの基礎知識 ・プレゼンテーションの作成 ・図やオブジェクトの挿入と編集 				
第12回	<p>PowerPointの活用 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図表・グラフ・表の挿入と編集 ・特殊効果の設定 ・印刷関係の機能 ・PowerPoint活用課題レポート 				
第13回	<p>タイピングテスト 授業の振り返りとまとめ</p>				
授業運営におけるICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・LMSを用いて掲示、授業Q&Aの対応、資料配布、授業内テスト、課題の出題、期末試験などを行います。 ・持参したPCにアプリをインストールしてPC演習を行います。 				
事前・事後学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・出席／欠席に関わらず、授業で出された課題や宿題に必ず取り組み、指定された期限までに提出してください。 	予習時間	2時間	復習時間	3時間
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の詳細は希望者に対して授業Q&Aにて個別対応します。 ・定期試験の解答例はLMSにて掲示します。 				
評価方法	評価割合	評価基準など			
授業内テスト	20%				
授業内課題・宿題	40%				
課題レポート	20%	課題レポートは全て提出する必要があります			
タイピングテスト	20%				
書名	著者	出版社	ISBN	備考	
30時間アカデミック Office2021 Windows 11対応	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版	978-4407359435	定価￥1,430（税込）	
はじめてのデータサイエンス 第2版	滋賀大学データサイエンス学部・山梨学院大学ICTリテラシー教育チーム 共編	学術図書出版社	978-4-7806-1345-2	定価￥2,090（税込）	
参考資料・URL					
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目は実務経験を有する教員の担当する科目です。 ・私の主な勤務実績は、1987年から1997年まで複数のソフトウェア開発会社にてプログラマ・システムエンジニアを行っていました。 ・大学教員となってからは、複数企業のITコンサルティングを経験しました。 ・実務経験で得たノウハウを授業運営に活かしていきます。 				

前年度の授業を踏まえた今年度の授業	この科目は新規科目です。自分自身のPCが使いこなせるような丁寧な指導を心がけます。
特記事項	<p>以下に該当する場合には、合格水準に達していても単位認定しないことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">・授業を無断で欠席した場合・授業内テストや授業内課題・宿題の提出率が著しく低かった場合・レポートやテストの提出において不正な行為を行なった場合や、それに関わった場合・授業に関する教員の指示等に繰り返し従わなかった場合

学期	2025年度前期	ナンバリングコード	HN-IN102	
科目名称	情報処理演習Ⅰ		開講言語	日本語
担当教員	清水 智、*長田 花音			
開講学科	管理栄養学科			
科目群	健康栄養学	履修相当年次	1年	
曜日時限	金曜2限	単位数	1単位	
到達目標	1) コンピューターによる情報処理の概念が理解できる。 2) コンピューターとネットワークの基本的な特性と利用法について理解できる。 3) 主要なアプリケーションソフトの操作技能と利用法について理解できる。 4) コンピューターおよびネットワークを活用して、管理栄養士が必要とする情報の収集・分析・選別・構成・発信などの方法について修得する。			
関連DP	DP1-②(考え方)			
授業概要	<p>この科目の細目は管理栄養学科（総合基礎教育科目）の演習です。単位区分は必修です。本授業では学習効果を高めるために実習室での着席位置の指定を行います。</p> <p>ICTが日常用語になりつつある今日、私たちは、家庭、社会、ビジネスなど様々な場面で大量の情報を収集し活用する必要性が高まっています。</p> <p>それに伴い、私たちは自らコンピューターを利用し処理できる技能・能力が必要とされています。</p> <p>本講義では、管理栄養士に必要な情報処理の手段としてのコンピューターやネットワークの活用能力をコンピューター実習を通じて身に付けることを目標としています。</p> <p>具体的には、情報化社会と情報処理の意義、コンピューターとネットワークの基礎知識、コンピューターとネットワークの基本操作、栄養や保健の専門分野に関連する主要なアプリケーションソフトの利用法についてコンピューター実習を中心とする演習を主体的に行なが理解を深めます。</p> <p>また授業においては、必要に応じてLMS（UNIVERSAL PASSPORT）やMicrosoft365のSharePointを用いて課題の提示や提出などを行ない、同ツールを事前・事後学修にも活用します。</p> <p>以下の点にも注意をしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PC必携科目としての履修登録の可否 ⇒PCを持ってなくても履修登録は可能ですが、授業の実習時にはPCが必要です。 ■推奨または指定のOS ⇒指定はありません。しかしながら本授業で標準で使用するWindows搭載PCのOfficeアプリとApple社PCであるMacのmac OS版のOfficeアプリなどでは操作法が異なる部分があります。 ■受講の際にPCを持参しなかった場合の対応 ⇒代替手段として、健康栄養学部のsurfaceを貸し出しますので、授業前に助手室で借りて授業に出席してください。 			
利用するアクティブ・ラーニング手法	実習・フィールドワーク			

授業計画

回数	内容
第1回	<p>ガイダンス 情報化社会と情報処理について 本授業の概要と方針、進め方や受講における心構えなどについて説明をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時に出題された課題を指定された期限までに処理する。 ・授業で採り上げた要点や用語について調べ、確認するなど復習を行なう。 ・授業で紹介する次回授業の要点について資料やwebの情報を調べるなど予習を行なう。 <p>以上を毎回実行してください。次回以降も同様です。</p>
第2回	<p>BYOD情報環境の利用法と実習 Windowsの基本操作とファイル操作(作成・編集・一時保存・呼出) OneDriveによる情報（データ）の保存と取り出し、 およびSharePointによる情報共有に関する実習</p>
第3回	インターネットの基礎知識と電子メールに関する実習
第4回	ワードプロセッシング実習(1)ビジネス文書の構成と基本的な編集機能を学ぶ
第5回	ワードプロセッシング実習(2)表を使った文書を学ぶ
第6回	ワードプロセッシング実習(3)いろいろな文書の例と発展的な編集機能を学ぶ

第7回	ワードプロセッシング実習(4)图形や画像素材などを導入した各種文書の作成						
第8回	表計算実習(1)計算式を使った基本的な表計算の方法						
第9回	表計算実習(2)関数を用いた基本的な表計算の方法						
第10回	表計算実習(3)表の編集機能と相対・絶対参照を導入した処理						
第11回	表計算実習(4)実用的な各種関数の使い方						
第12回	プレゼンテーション実習－プレゼンテーションのための基礎的なスライド製作から様々な素材を導入したスライド製作まで						
第13回	OfficeアプリケーションとWebにおける連携処理に関する実習						
授業運営におけるICT活用	Microsoft365のSharePointに設置された課題回収用の課題提出フォルダを利用して、受講者の課題解答のチェックを行い、その解答内容に対するコメントのフィードバックをLMSで行っている。						
事前・事後学習の内容	<p>授業計画の各回で演習した内容についてテキストを通読するとともに、</p> <p>授業時配布資料がある場合には、資料に目を通し、整理しておいてください。</p> <p>さらに授業時に出題した課題のコンピューター処理を行い、理解を深めてください。</p> <p>予復習が大切ですので、1回の授業あたり4時間程度の予復習をおこなってから授業に臨んでください。</p>		予習時間	0.5時間	復習時間	1時間	
フィードバックの方法	<p>提出された授業時課題や期末総合課題の模範解答あるいは改善点などについて、必要に応じコメントを提供します。</p> <p>希望する学生にはメール、LMS、あるいは直接、研究室で対応します。</p>						
評価方法	評価割合		評価基準など				
授業課題			50%				
期末総合課題			50%				
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
30時間アカデミックOffice2021	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版	978-4-407-35943-5	定価：本体1,300円+税			
参考資料・URL	<p>必要に応じてプリントや関連するファイルを配布します。</p> <p>参考書は授業の進展に合わせて適宜紹介します。</p>						
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)							
前年度の授業を踏まえた今年度の授業	<p>授業の進み方や説明の速さに注意して授業を行います。</p> <p>また、演習を行う皆さんの理解がより一層深まるよう、一人ひとりの状況を確認しながら、適切な助言(アドバイス)や質疑応答の機会を設けるなどの配慮をして授業を進めています。</p>						
特記事項	<p>授業時間以外にも積極的、主体的に持参されたPCを利用し、理解を深めるようにしてください。</p> <p>また授業時に出題された課題は自己解決(解答)できるよう努力してください。</p> <p>どうしても分からぬときには質問をしてください。</p>						

学期	2025年度後期	ナンバリングコード	HN-IN152
科目名称	情報処理演習II	開講言語	日本語
担当教員	加藤 千穂		
開講学科	管理栄養学科		
科目群	健康栄養学	履修相当年次	1年
曜日時限	火曜4限	単位数	1単位
到達目標	1. 管理栄養士業務に必要な情報を理解する。 2. 栄養価計算ソフトの操作方法を修得する。 3. コンピューターを用いたアンケート集計方法を修得し、データの整理、提示ができる。 4. 健康・栄養に関するデータの基礎的な統計学的処理を理解する。		
関連DP	DP1-①(把握する力)		
授業概要	<p>【授業概要】 管理栄養士は健康や栄養に関する情報を協働者と共有し、同時に一般の人々にウェブやデジタル・プレゼンテーションを通じて広く伝達する能力が求められている。管理栄養士業務でよく用いられる、ワードやエクセルによる表作成と数式・関数等を用いた表計算、各種調査実施後の集計処理、献立作成ソフトによる栄養価の算出を行う。</p> <p>【他分野・他の科目とのつながり】 この科目は情報処理演習Iで学んだことが基礎となる。この科目で学ぶことは、調理実習科目（基礎調理実習II）、給食系実習科目（給食運営実習、給食経営管理実習）、ライフステージと栄養管理の実践（栄養教育論、公衆栄養学）および疾病と栄養管理の実践（臨床栄養学）に関連し、さらに統合実習（臨地実習）につながる。</p> <p>【PCについて】 ・PC必携科目となる。ただし、PCを持っていなくても履修登録は可能である。 ・推奨または指定のOSは特になし。 ・受講の際にPCを持参しなかった場合は、代替手段として、健康栄養学部のsurfaceを貸し出す。授業前に助手室で借りてから授業へ出席すること。</p>		
利用するアクティブラーニング手法	グループワーク／プレゼンテーション／実習・フィールドワーク		

授業計画

回数	内容
第1回	本授業の成績評価基準を、左記【配布資料】に掲載しているため必ず確認すること 講義・実習： ガイダンス アカデミックライティングについて
第2回	講義・実習： 管理栄養士としての献立表記の基本 レシピ表記の基本
第3回	講義・実習： 栄養計算ソフトの基本 スマート栄養計算の使い方 献立の栄養価計算…課題レポート①
第4回	講義・実習： 栄養計算ソフトの活用 昼食1食分の献立作成
第5回	講義・実習： エクセルの活用① 栄養管理業務に必要な帳票の作成 (作業指示書) …課題レポート②
第6回	講義・実習： エクセルの活用② 栄養管理業務に必要な帳票の作成 (作業工程表) …課題レポート③
第7回	講義・実習： エクセルの活用③

	栄養管理業務に必要な帳票の作成 (食材日計表) …課題レポート④				
第8回	講義・実習： ワードやパワーポイントの活用① 栄養表示について（情報提示の方法）				
第9回	講義・実習： ワードやパワーポイントの活用② 献立紹介リーフレットの作成…課題レポート⑤				
第10回	講義・実習： データ分析① データの種類と基礎知識 (身体状況、健康調査等の基本集計)				
第11回	講義・実習： データ分析② 基本統計量、処理関数、分析ツール、グラフの作成				
第12回	講義・実習： アンケート集計の手法 アンケート集計とデータ化 グラフの作成と考察				
第13回	実習： 授業内小テスト（確認テスト）				
授業運営におけるICT活用					
事前・事後学習の内容	情報処理演習Ⅰで学んだエクセルの統計関数やグラフ作成について復習しておいてください。 配布資料の理解とノートの整理を中心に予復習（2時間以上）を励行して下さい。 授業時に指定した課題を期日内に完結させるため、自主的な表計算作業が必要です。 授業の詳細や資料の提示は、授業中またはTeamsを通じて示します。 わからないこと、もう一度説明してほしいことはその都度教員に確認してください。	予習時間	1時間	復習時間	1時間
フィードバックの方法	授業内で実習作業の進捗を見ながら、 必要に応じて評価指導を行います。				
評価方法	評価割合	評価基準など			
授業内で実習作業の進捗を見ながら、必要に応じて評価指導を行います。	50%				
授業内確認テスト	50%				
参考資料・URL	【参考書】 情報処理演習Ⅰで使用したテキスト				
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)	この科目的担当は管理栄養士免許を有します。				
前年度の授業を踏まえた今年度の授業	実技を取り入れた具体的で詳しい説明が好評のため、継続します。 学生の理解度に合わせて、授業の進捗や方法を調整し、柔軟に対応します。 栄養価計算の基礎技術および調査集計の基礎技術を習得するために、それぞれの演習について解説を充実させていきます。				
特記事項	【上記以外で伝えたいこと・授業のルールなど】 専門職として習得すべき技術の基礎を網羅しています。欠席した授業の演習は自習し、課題を提出してください。 なお、授業内容については、学生の理解度や状況等にあわせ、若干変更する可能性があります。				

開講学科	国際リベラルアーツ学科		
学期	2024年度前期	開講年度	毎年
ナンバリング	FNDN/DATA090		
科目名称	Introduction to Data Science		
履修前提要件	None		
担当教員	PARIDA Abhishek, JHINGAN Sanjay	配当年次	1年
科目区分	基幹教育	単位数	1単位
授業形態	演習	開講言語	英語

(注記 1) クラスの規模や施設の収容人数によっては、コースの登録を希望するすべての学生に対応できない場合があります

授業概要	In today's world, data science is fundamental to scientific inquiry, complementing theoretical frameworks and empirical experiments. Across various institutions and organizations worldwide, evidence-based decision-making is pivotal. This course aims to enhance students' comprehension of data's role and equip them with skills in data acquisition, mining, analysis, and visualization technologies.
前年度の授業を踏まえた今年度の授業	N/A
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)	N/A
到達目標	This introductory data science course is tailored for undergraduates with diverse academic backgrounds. It has no prerequisites, and prior knowledge of statistics or computer programming is unnecessary. The goal is to introduce students to the world of Data Science and Artificial Intelligence by exploring key ideas and concepts. The course does not involve advanced mathematics; instead, it emphasizes understanding what can be gleaned from data rather than performing complex analyses.

関連DP	DP1/DP2/DP3/DP4
------	-----------------

iCLA ディプロマ・ポリシー

(DP1) 口頭及び文書による高いコミュニケーション能力を修得し、有益な知識を効果的に伝達することができる

(DP2) 批判的思考力・創造力・問題解決能力・グローバルな意識を身につけ、多様に変化する社会に適応し、貢献する意欲をもっている

(DP3) グループ活動において、効果的に協働・連携することができる

(DP4) 個人的及び社会的な責任感を持ち、倫理的・道徳的な価値判断に基づいた社会貢献ができる

アクティブ・ラーニングの方法	PBL(課題解決型学習) / 反転授業 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プрезентーション				
アクティブ・ラーニングの詳細・追加情報	N/A				
授業運営におけるICT活用	N/A				
事前・事後学習の内容	Students are advised to take handwritten notes; this will drastically increase their ability to retain the information. Further, they are expected to practice regularly. One to two hours of study is required before the class preparation, and an equal amount of practice is needed after each lecture.	1週間当たりの予習時間	1時間	1週間当たりの復習時間	1時間
フィードバックの方法	The best way to correspond during the course is the UNIPA system or direct emails. Please check the UNIPA account regularly for updates related to classes. To have a better grade, be regular in the study, active and attentive in the class, do a revision of classwork regularly, and participate in-class quizzes.				

評価基準			
評価方法	評価割合	評価内容	
Understanding of Concepts	25%	Class Quizzes	

Participation in Group Activities	25%	In-class Participation
Presentation	50%	Final Presentation (lecture 15))

テキスト・参考書	Data Science: John Kelleher and Brendan Tierney The art of statistics – Learning from data: David Spiegelhalter
参考資料・URL	N/A
特記事項 - 剽窃	Plagiarism is the dishonest presentation of others' work as if it were one's own. Duplicate submission is also treated as plagiarism. Depending on the nature of plagiarism, one may fail the assignment or the course. The repeated act of plagiarism will be reported to the University, which may apply additional penalties.
特記事項 - その他	N/A

(注記 2) 授業計画は変更になる場合があります

授業計画	
回数	内容
第1回	Module 1: Data and AI in Contemporary Society Lecture 1 - Overview of Data Science: Definition and Applications; Examples of some real-world applications
第2回	Module 2: Nature of Data & Statistics Lecture 2 - Statistical thinking – story telling by data, case studies
第3回	Lecture 3 - What are data , and what is a data set - Variable types, plots
第4回	Lecture 4 - Summarizing and communicating numbers - Measure of Central Tendency, variance, and relative levels
第5回	Lecture 5 - What are we looking in data - Sample, population, Bell curve etc.
第6回	Lecture 6 - What causes what - Correlation, Covariance and Regression
第7回	Module 3: Privacy and Ethics in Data Science Lecture 7 - Ethical Considerations and Challenges; Case Studies
第8回	Module 4: Story telling with Data Lecture 8 - Exploratory Data Analysis (EDA) - Definition, Importance, Pre-requisite; Types of Data
第9回	Lecture 9 - Python implementation of Statistical concepts, Types of plots, Data Visualization techniques, and Case Studies
第10回	Lecture 10 - Exploratory Data Analysis - Case Study
第11回	Lecture 11 - Exploratory Data Analysis - Case Study
第12回	Module 5: Machine Learning and its Types Lecture 12 - Types of Learning, types of ML problems; Future of Data Science
第13回	Module 6: Big Data, Data Structures and Algorithms Lecture 13 - Introduction to Big Data; Its characteristics; application
第14回	Module 7: Foundations of Data Structures and Algorithmic Techniques Lecture 14 - Introduction to Data Structure and selected sorting and searching algorithms

03 【リテラシーレベル】山梨学院大学 (変更後のカリキュラムマップ)

- ・2025年度教育課程表(全学部)

〈法学部法学科〉

2025年度 教育課程表

【1~4年生共通】

【注意事項】
①レベルは、履修相当次年の目安にしてください。100番台＝1年次、200番台＝2年次、300番台＝3年次、400番台＝4年次相当です。詳細は、履修ガイドブックを確認してください。
②グレードの網掛けは2025年度履修科目です。科目名の「いろは」は「英語」で授業は実施されています。
③各選択科目は必ず2つ選択し、2つ目を「併せたる」科目とし、3つ目を「併せたる」科目とし、4つ目を「併せたる」科目とします。
④各選択科目は必ず2つ選択し、2つ目を「併せたる」科目とし、3つ目を「併せたる」科目とし、4つ目を「併せたる」科目とします。

④科目名に「□」がついている科目は、2025年度入学生全員を対象とした履修指定科目です。指定された曜日時間のクラスで必ず履修をしてください。
⑤自己紹介用紙は、必ず記入して下さい。

④上記は学びの領域ごとに色分けしています。

学問分野別科目群 特定の学問分野について学修しま

スキル系科目群 社会生活に役立つスキルを身につけます。

キャリア形成支援 将来のキャリア形成について考えます。

区分	科 目	単 位	科 目	単 位	200単				300単				400単				卒業	
					科 目	単 位	科 目	単 位	科 目	単 位	科 目	単 位	科 目	単 位	科 目	単 位		
＜経営学概論＞																		
経営学概論	②	経営戦略論(休講)	②	国際経営(休講)	②	人的資源管理	②	ツアーリズムマネジメント	②	1	へ	た	だ	し	学	卒		
現代社会とビジネス	②	経営理論	②	技術経営	②	イノベーション・マネジメント	②	ものづくり経営	②	2	経	営	学	部	業	に	要	
経営戦略	②	経営戦略	②	フィナンス	②	経営倫理	②	事業経営	②	4	営	学	部	業	に	所		
アドバイザリーシップ	②	アドバイス論	②	リソースマネジメント	②	オペレーション管理	②	情報セキュリティ	②	とす	る	る	る	る	る	る	る	
ビジネス論	②	ビジネス論	②	リーダーシップ	②	②	②	②	②	とす	る	る	る	る	る	る	る	
経営学概論(中国語)	②	経営学概論(中国語)	②	国際経営(中国語)	②	人的資源管理(中国語)	②	国際戦略戦論 A(中国語)	②	1	へ	た	だ	し	学	卒		
日本のビジネス(中国語)	②	経営理論(中国語)	②	技術経営(中国語)	②	イノベーション・マネジメント(中国語)	②	国際経営戦論 B(中国語)	②	2	経	営	学	部	業	に	要	
経営戦略(中国語)	②	経営戦略(中国語)	②	フィナンス(中国語)	②	経営倫理(中国語)	②	事業経営(中国語)	②	4	営	学	部	業	に	所		
アドバイザリーシップ(中国語)	②	アドバイス論(中国語)	②	リソースマネジメント(中国語)	②	オペレーション管理(中国語)	②	情報セキュリティ(中国語)	②	とす	る	る	る	る	る	る	る	
e-Business論(中国語)	②	e-Business論(中国語)	②	リーダーシップ(中国語)	②	②	②	②	②	とす	る	る	る	る	る	る	る	
＜マーケティング＞																		
マーケティング概論	②	流通論	②	消費者行動論(休講)	②	リテールマーケティング	②	サービスマーケティング	②	1	へ	た	だ	し	学	卒		
マーケティング概論(中国語)	②	マーケティング概論	②	技術経営(中国語)	②	ブランドマネジメント	②	国際マーケティング(休講)	②	2	経	営	学	部	業	に	要	
マーケティング概論(中国語)	②	流通論(中国語)	②	消費者行動論(中国語)	②	リテールマーケティング(中国語)	②	サービスマーケティング(中国語)	②	4	営	学	部	業	に	所		
マーケティング概論(中国語)	②	マーケティング概論(中国語)	②	リーダーシップ(中国語)	②	オペレーションマネジメント(中国語)	②	国際マーケティング(中国語)	②	とす	る	る	る	る	る	る	る	
＜会計論＞																		
簿記概論	②	工業簿記	②	財務会計論	②	税務会計論	②	税務会計論	②	1	へ	た	だ	し	学	卒		
会計学概論	②	商業簿記	②	管理会計論	②	②	②	②	②	2	経	営	学	部	業	に	要	
簿記概論(中国語)	②	工業簿記(中国語)	②	財務会計論(中国語)	②	税務会計論(中国語)	②	税務会計論(中国語)	②	4	営	学	部	業	に	所		
会計学概論(中国語)	②	商業簿記(中国語)	②	管理会計論(中国語)	②	②	②	②	②	とす	る	る	る	る	る	る	る	
＜経済論＞																		
経済学概論	②	ミクロ経済学	②	金融論	②	公共経済学	②	国際貿易	②	1	へ	た	だ	し	学	卒		
経済学概論	②	マクロ経済学	②	マクロ経済学	②	財政政策と金融政策	②	国際金融	②	2	経	営	学	部	業	に	要	
経済学概論(中国語)	②	ミクロ経済学(中国語)	②	金融論(中国語)	②	公共経済学(中国語)	②	国際貿易(中国語)	②	4	営	学	部	業	に	所		
経済学概論(中国語)	②	マクロ経済学(中国語)	②	マクロ経済学(中国語)	②	財政政策と金融政策(中国語)	②	国際金融(中国語)	②	とす	る	る	る	る	る	る	る	
＜企画論＞																		
実地見習I	②	◇基礎演習Ⅱ	②	ゼミナール入門I	②	ゼミナール入門Ⅱ	②	ゼミナールI	②	ゼミナールⅡ	②	ゼミナールⅢ	②	ゼミナールⅣ	②	②		
アカデミックスキルI	②	◇アカデミックスキルⅡ	②	アカデミックスキルI(中国語)	②	アカデミックスキルⅡ(中国語)	②	アカデミックスキルI(中国語)	②	アカデミックスキルⅡ(中国語)	②	アカデミックスキルI(中国語)	②	アカデミックスキルⅡ(中国語)	②	アカデミックスキルI(中国語)	②	
アカデミックスキルI(中国語)	②	アカデミックスキルⅡ(中国語)	②	アカデミックスキルI(中国語)	②	アカデミックスキルⅡ(中国語)	②	アカデミックスキルI(中国語)	②	アカデミックスキルⅡ(中国語)	②	アカデミックスキルI(中国語)	②	アカデミックスキルⅡ(中国語)	②	アカデミックスキルI(中国語)	②	
＜政治学＞																		
政治学概論 I	②	政治学概論 II	②	財政学 A	②	財政学 B	②	国際政治 I	②	国際政治 II	②	1	へ	た	だ	し	学	卒
現代中国の政治	②	日本とヨーロッパの社会	②	外交史 A	②	外交史 B	②	国際法 I	②	国際法 II	②	2	経	営	学	部	業	に
公務員の仕事	②	日本政治史 A	②	日本政治史 B	②	国際文化研究 I	②	国際文化研究 II	②	4	営	学	部	業	に	所		
アフリカ共同体論	②	紛争解決学入門 I	②	紛争解決学入門 II	②	国際政治(概論) I	②	国際政治(概論) II	②	とす	る	る	る	る	る	る	る	
現代中国の社会・経済	②	国際政治(概論) II	②	自衛隊の研究	②	自衛隊の研究	②	自衛隊の研究	②	アフリカの社会と政治入門 I	②	アフリカの社会と政治入門 II	②	アフリカの社会と政治入門 III	②	アフリカの社会と政治入門 IV	②	
政治学概論 I (中国語)	②	政治学概論 II (中国語)	②	国際関係論(概論) I (中国語)	②	国際関係論(概論) II (中国語)	②	国際関係論(概論) I (中国語)	②	国際関係論(概論) II (中国語)	②	国際関係論(概論) I (中国語)	②	国際関係論(概論) II (中国語)	②	国際関係論(概論) I (中国語)	②	
日本政治社会論 I (中国語)	②	日本政治社会論 II (中国語)	②	外交論入門 I (中国語)	②	外交論入門 II (中国語)	②	多国際交渉論 I (中国語)	②	多国際交渉論 II (中国語)	②	多国際交渉論 I (中国語)	②	多国際交渉論 II (中国語)	②	多国際交渉論 I (中国語)	②	
＜法學＞																		
法學概論	②	日本の法と文化	②	民法 C	②	民法 D	②	労働法 A	②	労働法 B	②	1	へ	た	だ	し	学	卒
憲法 A	②	憲法 B	②	刑法 A	②	刑法 B	②	国際法 I	②	国際法 II	②	2	経	営	学	部	業	に
民法 A	②	民法 B	②	企業法 A	②	企業法 B	②	企業法 C	②	企業法 D	②	4	営	学	部	業	に	所
企業法 A	②	企業法 B	②	企業法 C	②	企業法 D	②	企画法 I	②	企画法 II	②	とす	る	る	る	る	る	る
企画法 A	②	企画法 B	②	企画法 C	②	企画法 D	②	企画法 I	②	企画法 II	②	アフリカの社会と政治入門 I	②	アフリカの社会と政治入門 II	②	アフリカの社会と政治入門 III	②	
企画法 B	②	企画法 C	②	企画法 D	②	企画法 I	②	企画法 II	②	企画法 III	②	アフリカの社会と政治入門 IV	②	アフリカの社会と政治入門 V	②	アフリカの社会と政治入門 VI	②	
企画法 C	②	企画法 D	②	企画法 I	②	企画法 II	②	企画法 III	②	企画法 IV	②	アフリカの社会と政治入門 VII	②	アフリカの社会と政治入門 VIII	②	アフリカの社会と政治入門 IX	②	
企画法 D	②	企画法 I	②	企画法 II	②	企画法 III	②	企画法 IV	②	企画法 V	②	アフリカの社会と政治入門 X	②	アフリカの社会と政治入門 XI	②	アフリカの社会と政治入門 XII	②	
＜人文・社会・自然科学科＞																		
哲学 I	②	哲学 II	②	歴史学 I	②	歴史学 II	②	論理学 I	②	論理学 II	②	1	へ	た	だ	し	学	卒
歴史学 I	②	歴史学 II	②	論理学 I	②	論理学 II	②	倫理学 I	②	倫理学 II	②	2	経	営	学	部	業	に
倫理学 I	②	倫理学 II	②	文化人類学 I	②	文化人類学 II	②	文化人類学 I	②	文化人類学 II	②	4	営	学	部	業	に	所
文化人類学 I	②	文化人類学 II	②	ジンバーバン学 I	②	ジンバーバン学 II	②	ジンバーバン学 I	②	ジンバーバン学 II	②	アフリカの社会と政治入門 I	②	アフリカの社会と政治入門 II	②	アフリカの社会と政治入門 III	②	
ジンバーバン学 I	②	ジンバーバン学 II	②	ジンバーバン学 I	②	ジンバーバン学 II	②	ジンバーバン学 I	②	ジンバーバン学 II	②	アフリカの社会と政治入門 IV	②	アフリカの社会と政治入門 V	②	アフリカの社会と政治入門 VI	②	
ジンバーバン学 II	②	ジンバーバン学 I	②	ジンバーバン学 II	②	ジンバーバン学 I	②	ジンバーバン学 II	②	ジンバーバン学 I	②	アフリカの社会と政治入門 VII	②	アフリカの社会と政治入門 VIII	②	アフリカの社会と政治入門 IX	②	
ジンバーバン学 I	②	ジンバーバン学 II	②	ジンバーバン学 I	②	ジンバーバン学 II	②	ジンバーバン学 I	②	ジンバーバン学 II	②	アフリカの社会と政治入門 X	②	アフリカの社会と政治入門 XI	②	アフリカの社会と政治入門 XII	②	
＜国際教養・国際化＞																		
ICTリテラシー	②	情報社会の倫理と倫理	②	ICTと情報社会	②	資格情報技術 A	②	ソリューション開発論	②	資格情報技術 B	②	1	へ	た	だ	し	学	卒
データサイエンス	②	データサイエンス	②	データサイエンス	②	データサイエンス	②	データサイエンス	②	データサイエンス	②	2	経	営	学	部	業	に
データサイエンス基礎理論	②	データサイエンス基礎理論	②	データサイエンス基礎理論	②	データサイエンス基礎理論	②	データサイエンス基礎理論	②	データサイエンス基礎理論	②	4	営	学	部	業	に	所
データサイエンス基礎理論(中国語)	②	データサイエンス基礎理論(中国語)	②	データサイエンス基礎理論(中国語)	②	データサイエンス基礎理論(中国語)	②	データサイエンス基礎理論(中国語)	②	データサイエンス基礎理論(中国語)	②	アフリカの社会と政治入門 I	②	アフリカの社会と政治入門 II	②	アフリカの社会と政治入門 III	②	
データサイエンス基礎理論(中国語)	②	データサイエンス基礎理論(中国語)	②	データサイエンス基礎理論(中国語)	②	データサイエンス基礎理論(中国語)	②	データサイエンス基礎理論(中国語)	②	データサイエンス基礎理論(中国語)	②	アフリカの社会と政治入門 IV	②	アフリカの社会と政治入門 V	②	アフリカの社会と政治入門 VI	②	
＜国際教養・国際化＞																		
国際教養 I (休講)	⑥	中国語のリスニング&スピーキング I (休講)	④	国際教養 II (休講)	⑥	中国語のリスニング&スピーキング II (休講)	④	国際教養 III (休講)	⑥	中国語のリスニング&スピーキング III (休講)	④	国際教養 IV (休講)	⑥	中国語のリスニング&スピーキング IV (休講)	④	国際教養 V (休講)	⑥	
国際教養 I (休講)	⑥	中国語のリスニング&スピーキング I (休講)	④	国際教養 II (休講)	⑥	中国語のリスニング&スピーキング II (休講)	④	国際教養 III (休講)	⑥	中国語のリスニング&スピーキング III (休講)	④	国際教養 IV (休講)	⑥	中国語のリスニング&スピーキング IV (休講)	④	国際教養 V (休講)	⑥	
国際教養 I (休講)	⑥	中国語のリスニング&スピーキング I (休講)	④	国際教養 II (休講)	⑥	中国語のリスニング&スピーキング II (休講)	④	国際教養 III (休講)	⑥	中国語のリスニング&スピーキング III (休講)	④							

2025年度 教育課程表（2025年度入学者対象）

レバ ル 区 分	100番				200番				300番				400番				卒業要件 (合計124単位)
学部専攻科目 (健康栄養学)	専門基礎分野	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位		
		*基礎演習Ⅰ ① *情報処理演習Ⅰ ①	②	① *基礎演習Ⅱ ① *情報処理演習Ⅱ ①	②												
		食生活論 ②	②			*統計学演習Ⅰ ①				医学概論 ②		統計学演習Ⅱ ①					
		★管理栄養士概論 ②	②														
		基礎化学 ②	②														
		*有機化学 ②	②														
		基礎生物学 ②	②														
		カウンセリング演習 ①	①														
		社会環境と健康 ②	②			*健康の概念と行政、環境 ②		*公衆衛生と疾病予防 ②									
		人体の構造と機能及び疾 病の成り立ち ②	②	*解剖生理学Ⅰ ②	②	*解剖生理学Ⅱ ②		*疾病の成り立ちⅠ ②		*疾病の成り立ちⅡ ②				*臨床生理学 ②	*臨床生理学実験 ①		
	専門分野	*食事設計実習 ①	①	*食品学総論 ②	②	*食品学実験 ①		*生化学 ②		*細胞生化学 ②		*生化学実験Ⅰ ①		*生化学実験Ⅱ ①			
		食物と健康 ②	②	*食品衛生学 ②	②	*食品衛生学実験 ①											
		*基礎調理実習Ⅰ ①	①	*基礎調理実習Ⅱ ①	①	*調理科学 ②								*応用調理実習 ①			
		基礎栄養学 ②	②	*基礎栄養学 ②	②	*代謝栄養学 ②		*栄養学実験 ①									
	専門分野	応用栄養学 ②	②	*応用栄養学Ⅰ ②	②	*応用栄養学Ⅱ ②		*応用栄養学実習 ①		*応用栄養学Ⅲ ②							
		栄養教育論 ②	②	*栄養教育マジメント ②	②	*栄養教育マジメント実習 ①		*栄養教育実践論 ②		*栄養教育実践実習 ①							
		臨床栄養学 ②	②			*臨床栄養学各論Ⅰ ②		*臨床栄養学各論Ⅱ ②						*臨床栄養学各論Ⅲ ②			
		公衆栄養学 ②	②			*臨床栄養学総論実習 ①											
		給食経営管理論 ②	②			*給食計画・実務論 ②		*給食運営実習 ①		*給食経営管理論 ②							
		総合演習 ②	②							*総合演習Ⅰ ①				*総合演習Ⅱ ①			
		臨地実習 ②	②					*校外実習 (給食の運営) ①		*臨地実習Ⅰ (公衆栄養学) ①							
										*臨地実習Ⅱ (給食の運営) ①							
										*臨地実習Ⅲ (臨床栄養学) ①							
		健康栄養特講 ②	②														
	専門発展分野	地域連携 ②	②														
学部専攻科目 以外	人文・社会・自然科学	哲學Ⅰ ②	②	哲學Ⅱ ②	②	歴史学Ⅰ ②	②	歴史学Ⅱ ②	②	論理学Ⅰ ②	②	論理学Ⅱ ②	②	倫理学Ⅰ ②	②	倫理学Ⅱ ②	
		文化人類学Ⅰ ②	②	文化人類学Ⅱ ②	②	ジンピーダー学Ⅰ ②	②	ジンピーダー学Ⅱ ②	②	心理学Ⅰ ②	②	心理学Ⅱ ②	②	宗教と人間Ⅰ ②	②	宗教と人間Ⅱ ②	
		社会学Ⅰ ②	②	社会学Ⅱ ②	②	地理学Ⅰ ②	②	地理学Ⅱ ②	②	日本史Ⅰ ②	②	日本史Ⅱ ②	②	地誌学 ②	②	世界史 ②	
		日本国憲法 ②	②	統計学 ②	②	生物学Ⅰ ②	②	生物学Ⅱ ②	②	宇宙科学 ②	②	エネルギー科学 ②	②	数学Ⅰ ②	②	数学Ⅱ ②	
		経済学 ②	②														
		データサイエンス ②	②	コンピューター基礎理論 ②	②	情報社会の権利と倫理 ②		ICTと情報社会 ②		資格情報技術A ②		資格情報技術B ②		専門演習Ⅰ ②		専門演習Ⅱ ②	
		言語スキル ②	②	アクティブラーディング ②	②	学びと社会のデザインⅠ ②		学びと社会のデザインⅡ ②		ピア・サポート実践A ②		ピア・サポート実践B ②					
		ヒューマンスキル ②	②	ウエルビーイングⅠ ②	②	ウエルビーイングⅡ ②		学びと社会のデザインⅠ ②		ピア・サポート実践A ②		ピア・サポート実践B ②					
		国際共修入門 ②	②	異文化コミュニケーション ②	②	国際文化交流 ②		アニアムと社会 ②		国際文化交流 ②		国際文化交流 ②		国際コミュニケーションⅠ ②		国際コミュニケーションⅡ ②	
		国際共修 ②	②	国際コミュニケーションⅠ ②	②	留学プランニング ②		海外文化研修A ④		海外文化研修B ④							
学部専攻科目 以外	語学	実用英語(日常生活) A ①	①	実用英語(日常生活) B ①	①	資格英語(TOEIC)Ⅰ A ①		資格英語(TOEIC)Ⅰ B ①		資格英語(TOEIC)Ⅱ A ①		資格英語(TOEIC)Ⅱ B ①					
		実用英語(旅行・留学) A ①	①	実用英語(旅行・留学) B ①	①	資格英語(TOEIC)Ⅰ A ①		資格英語(TOEIC)Ⅰ B ①		資格英語(TOEIC)Ⅱ A ①		資格英語(TOEIC)Ⅱ B ①					
		総合英語Ⅰ ②	②	総合英語Ⅱ ②	②												
		基礎中国語Ⅰ ②	②	基礎中国語Ⅱ ②	②	初级中国語Ⅰ ②		初级中国語Ⅱ ②		中級中国語Ⅰ ②		中級中国語Ⅱ ②					
		スポーツ実践(バッカラボール) ①	①	スポーツ実践(軽スポーツⅠ) ①	①												
		スポーツ実践(バレーボール) ①	①	スポーツ実践(軽スポーツⅡ) ①	①												
		スポーツ実践(ハンドボール) ①	①	スポーツ実践(ハンドボール) ①	①												
		スポーツ実践(サッカー) ①	①	スポーツ実践(サッカー) ①	①												
スポーツ	競技スポーツ実践A ①	①	競技スポーツ実践B ①	①	競技スポーツ実践C ①		競技スポーツ実践D ①		競技スポーツ実践E ①		競技スポーツ実践F ①		競技スポーツ実践G ①				
	スポーツ経営 ②	②	トレーニング論 ②	②	スポーツ方法 ②		スポーツ指導論 ②		スポーツ科学 ②		コーチング基礎 ②						
	スポーツ心理学 ②	②															
	ワーカーラボ: 健康の基礎知識 ②	②	キャリアデザイン入門 ②	②	キャリアデザイン基礎 ②		キャリアデザイン発展 ②		アスリートのキャリア形成 ②		実践キャリア論 ②						
	フィナシシャル・リラクシ ョン ②	②	産業と職業の研究 ②	②	セルフフランディング ②												
	グローバル人材の形成 ②	②	クエリティ・オブ・ライフの探求 ②	②	地域プロジェクト実践 ②												
	自己発見&キャリアデザイン ②	②	営業学 ②	②													
	キャリア形成支援 ②	②															

*印の科目を含め
104単位を必修

20単位を必修

以下は、教職課程（自由科目）に関する科目です。卒業要件単位数には入りません。教職課程の履修については教職課程履修規程に従うこと

【注意事項】

①レベルは、履修相当年次の目安にてください。100番台 = 1年次、200番台 = 2年次、300番台 = 3年次、400番台 = 4年次相当です。詳細は、履修ガイドブックを確認してください。

③グレーの網掛けは2025年度休講科目です。科目名の

入されています。

2025年度 教育課程表（2025年度入学者対象）

【注意事項】

④レベルは、履修相当年次の目安にしてください。100番台 = 1年次、200番台 = 2年次、300番台 = 3年次、400番台 = 4年次相当です。詳細は、履修ガイドブックを確認してください。

② *印の科目は必修科目です。
③科目名に「△」がついている科目は、1年次の履修指定科目です。

④グレーの網掛けは2025年度休講科目です。科目名のうしろに“休講”が記入されています。

⑤上記は学びの領域ごとに色分けしています。

専門分野別科目群 特定の専門分野について掌修します

3年生必修科目群 社会生活に役立つ3年生

キャリア形成支援 将来のキャリア形成について考えます。

04 【リテラシーレベル】 山梨学院大学 (変更後の取組概要)

ICTスキルとデータサイエンス修得プログラム

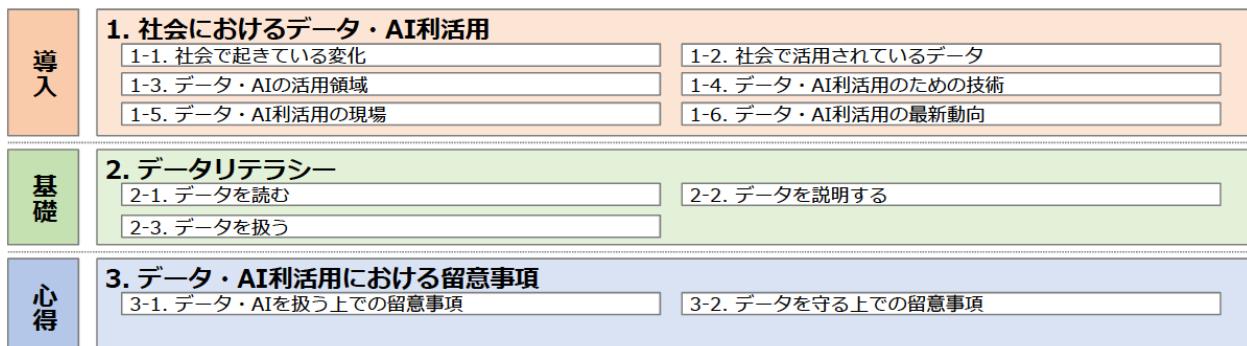
本教育プログラムを修了すると身につくこと

必修科目を学ぶことで、**ICTスキルとデータサイエンス**が同時に身につきます。本教育プログラムを終了すると学生生活に必要な文書作成、表計算などのICTスキルが身につきます。ICTスキルは、卒業後も、職場ではもちろんのこと、社会の様々な場面で活用できます。また、データサイエンスを学ぶことで、**ビッグデータ**や**AI**とともに生活する現代社会において、**知らないことによる様々なリスクを回避し、活用することに興味を持つ**ことができます。そして、社会でデータサイエンスを活用するための基礎的な能力が身につきます。



2重枠が本教育プログラムに係る科目。他はプログラム修了者向けの周辺科目。

モデルカリキュラム 「導入」、「基礎」、「心得」の内容を全て含むように本教育プログラムは編成されています。



プログラムの特徴

1. 大学の教育理念に基づいたプログラム設計

山梨学院大学では2021年度に教育理念を更新しています。本教育プログラムはその教育理念に沿うように教育内容、授業運営が設計されています。



山梨学院大学の教育理念

山梨学院大学は広い**国際的視野**を持ち**実践的な知識と技能**を備え創造力と行動力を発揮して理想の未来を創る人材を育成する。

国際的視野 (多様性への理解)

山梨学院大学の学生は、一般学生、スポーツアスリート学生、留学生など多様な学生から構成されています。学生が大学で学ぶ目的も多様です。本教育プログラムの**グループ学習**では、こうした学生が協力して学習し、お互いの考えを認め合って、**多様性**への理解を身につけます。



実践的な知識と技能

本教育プログラムでは、本学が社会科学系の学部を中心に構成されていることを考慮して、図表を多用して数式は必要最小限に絞り、授業内容を設計しています。また、各学部の学生の興味に応じた**実践的な知識と技能**を身につける時間を設けています。

2023年度からは、こうした内容を盛り込んで本学教員が滋賀大学データサイエンス学部と**共同執筆した教科書**を採用しています。

2. グループ学習を重視する

活用事例のグループ学習を通して、数理・データサイエンス・AIを**学ぶことの楽しさ**を体験し**将来に渡って学ぶ力**を身につけます。

3. 授業運営方法・成績評価の共通化

「ICTリテラシー」「データサイエンス」は複数の教員で担当しています。それぞれの科目で以下の工夫をしています。

- ・**同一シラバス、同一運営方法**で授業を行っています
- ・成績評価のための基準が**統一**され厳格化されています

4. 山梨県内の大学と連携

山梨大学が中心となり活動している山梨県内の大学の「数理・データサイエンス・AI教育連携にかかる**授業設計研究会**」に参加しています。